

# 道德通信 **かけ橋**

学校・家庭・地域の心のかけ橋

龍野小学校

令和3年9月10日

NO. 1

文責：校長 大江 律子

## 地域・家庭・学校が一体となって

子どもたちは、どの子もかけがえのない存在です。また、地域の宝です。

学校では、子どもたちが生き生きと活動できるように、また、将来自分の力でしっかり生きていける子どもの育成に努めています。

また、学校は、子どもたちにとって安心できる場、心の居場所となる場でありたいと思っています。そのためには、自分を大切にできること、共に生きるということ、きまりを守ることなど多くの力をつけていくことが必要です。また、命の大切さや友だちを思いやる心など、龍野小学校では学力向上とともに心の教育を重視して、本年度は道德教育の研究に取り組んでいます。

本校では、子どもたちが「なりたい自分」になるために、一人一人が自己実現できる子どもたちに育つよう、取り組みを進めています。

子どもたちが、すくすくと育っていくためには、地域・家庭・学校の連携が不可欠です。この「かけ橋」では、学校の道德教育の取組を紹介しながら、家庭・地域・学校が一体となって、共に子どもたちを育てていく『かけ橋』となりたいと考えています。そこで、学校での道德教育をはじめとした心の教育について、紹介したいと思っています。

「笑顔」「元気」あふれる子どもたちの育成に向けて、今後とも御協力よろしくお願いします。

## 道德科の授業紹介 **第5学年「広い心」折れたタワー**

ひろしは給食当番の時マスクを忘れ、そのことでのりおに強く責められました。数日後の掃除の時間に、のりおのほうきがあたり一生懸命に作ったひろしのタワーが折れてしまいました。ひろしは、迷いましたが、わざとじゃないのでのりおを許すという話です。

子どもたちは、「ひろしは、折れたタワーを見たときひろしがどんなことを考えたのか」について話し合いました。「腹が立つ」「せっかくがんばったのに」「悔しい気持ち」など、「許せない」という気持ちがたくさん出ました。また、「だれにでも失敗はある」「わざとではないから仕方がない」という「許そう」という気持ちも発表していました。その中で、「今怒ったら、給食当番ののりおと同じになる。文句を言わないことでのりおが分かってくれたら」という、給食の時の自分と今の相手の立場を思いやった考えも出てきました。「しかたないさ」と言われたのりおの気持ちを考え、「マスクのことで文句をいった自分はずかしい」「文句を言った自分を後悔している」「友達が失敗したとき許したい」など、話し合った子どもたちでした。5年生の子どもたちがとても真剣に考えた授業でした。

この授業は、だれにでも失敗はあることを理解し、相手の立場になって、広い心で許そうとする心情を育てることをねらいとした学習でした。「失敗した友達にどう接するか」について、互いの考えで学び合った5年生でした。

